

プログラム： インテンシブプログラム

シラバス講義名	がんプロ特講Ⅱ(先端のがん臨床研修)
担当教員	小林 規俊／幡多 政治
単位数	2
期間曜日時限	集中
コース専攻	インテンシブプログラム
学習到達目標	がん治療の实地において、がん特有な難治療病態に関する個別的カンサーボードに参加し、知識、技術を身に付ける。 骨転移、肝転移、口腔ケアに関する治療法の選択ができる。 いわゆるoncology emergencyに対応ができる。 がん薬物療法、放射線、緩和に加え臓器専門家と逐次相談し、患者を集学的に治療し、タイムリーなコンサルテーション能力を身に付ける。
講義概要	実習の内容 骨転移、肝転移、要口腔ケア患者の治療方針を決定するためのカンサーボードに参加する。放射線、緩和、薬物療法専門医に加えて臓器ごとの専門医、看護部、薬剤部等の多職種間連携で、実際の患者に対する治療方針を決定していく。大学院生の役割は提示症例のプレゼンテーション、会議の進行、および決定事項の遂行とその効果に関する報告である。
成績評価方法	実習の受講、レポート等で総合的に評価する。
前提科目	
学習上留意点と準	実際の患者さんのプレゼンテーションを行い、ディスカッションする能力を身に着ける。積極的な発言が望まれる。事前にtopicとなる内容を表す演題名が公表されるためその内容に関して各自学習をすること。
オンラインツール	
教科書等	教科書: 適宜提示する。 参考書: 「がん治療エッセンシャルガイド」(南山堂)、「新臨床腫瘍学」(南山堂)、「The Chemotherapy Source Book」(LWW)
教員研究室	基礎研究棟B343
教員オフィスアワー	毎日、午前9時～午後5時(事前にアポイントを取ってください)
教員連絡先	
ホームページ	http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~yganpro/
教員実務経験	
アクティブラーニン	
SDGs	項目03に該当する。多くは「治らない」病気としての進行・再発がんに対して正しく抗がん剤を使用すること、それを正しく患者に伝えること、により患者が主体的にがんを治療しながらの「健康」を考えるきっかけを作ることが、日本で1/3を占める死因としてのがんと健康的に生きていくために私たち医師ができる「がん治療」の一つであることを学ぶ。
授業計画	決定次第案内
備考	

シラバス講義名	がんプロ特講 I (臨床腫瘍学概論)
担当教員	小林 規俊／幡多 政治
単位数	1
期間曜日時限	集中
コース専攻	インテンシブプログラム
学習到達目標	がん診療の实地について学び、診断、治療の最新知識、技術を身につける。他科の医師、薬剤師、看護師、その他のコメディカルとのコミュニケーション能力を身につける。
講義概要	腫瘍外科学、腫瘍内科学、腫瘍病理学について、系統的に習得することを目的とする。また、症例についてもディスカッションを行い、最新の治療方法や最適な治療方法についても学習し、実践的な知識の習得を目指す。
成績評価方法	出席ならびにレポートによる総合評価を行う。
前提科目	
学习上留意点と準	事前の準備・主体的な参加を期待する。一回の参加で必ず一度質問をする意欲を期待する。日ごろからCancer Research、Cancer ScienceなどのJournalを精読しがん研究のトレンドを身につけておくこと。
オンラインツール	
教科書等	教科書: 適宜提示する。 参考書: その都度の講義の際に示される。
教員研究室	基礎研究棟B343
教員オフィスアワー	毎日午前9時から午後5時まで(事前にアポイントを取ってください)
教員連絡先	
ホームページ	http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~yganpro/ http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~yoncol/
教員実務経験	
アクティブラーニン	
SDGs	項目03に該当する。多くは「治らない」病気としての進行・再発がんに対して正しく抗がん剤を使用すること、それを正しく患者に伝えること、により患者が主体的にがんを治療しながらの「健康」を考えるきっかけを作ることが、日本で1/3を占める死因としてのがんと健康的に生きていくために私たち医師ができる「がん治療」の一つであることを学ぶ。
授業計画	毎月 第1水曜・第3火曜 18:00から19:10 講義日程表参照
備考	毎回、開催通知を出す。

シラバス講義名	がんプロ特講Ⅱ(ゲノム医学)
担当教員	小林 規俊／加藤 真吾
単位数	2
期間曜日時限	集中後期
コース専攻	インテンシブプログラム
学習到達目標	がんにおける遺伝子異常はがん発生の根本的な原因であるとともに、そのがんの形質を決定する重要な因子である。このためがんに生じている様々な遺伝子異常はがんの診断・治療にとって最も重要なターゲットであるといえる。一方で「遺伝」という名称が生じる誤解、あるいは遺伝性疾患としてのがんについて、これまでは十分な理解がなされてきたとはいえない。本科目では、がんの遺伝子診断の方法と解釈を中心に、遺伝子診断により生じる可能性のある倫理的問題、遺伝性のがんについての理解を深め、患者に正しい情報を伝えられる能力を身に着ける。
講義概要	分子遺伝学: 遺伝子と遺伝について基本を学ぶ。様々な次世代シーケンサーの種類と特徴、解析手法や結果の解釈につき学ぶ。 体細胞変異、生殖細胞系列変異の違いや、バリエーションの評価を学ぶことで、遺伝子レベルにおける診断・治療と付随する倫理的問題点を学ぶ。 がんの遺伝子診断学: がんの遺伝子診断の方法、問題点を学ぶ。 AYA世代・小児のがんと遺伝子の異常について学ぶ。
成績評価方法	出席ならびにレポートによる総合評価を行う。
前提科目	
学習上留意点と準	遺伝学の基礎を学んでおくこと遺伝学、遺伝子診断、がん遺伝子に関する予習を行うことが望ましい。
オンラインツール	
教科書等	教科書: 適宜提示する。 参考書: その都度の講義の際に示される。
教員研究室	基礎研究棟B343
教員オフィスアワー	毎日午前9時から午後5時まで(事前にアポイントを取ってください)
教員連絡先	
ホームページ	http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~yganpro/
教員実務経験	
アクティブラーニン	
SDGs	項目03に該当する。実臨床としていまだ経験の浅いゲノムを利用した医療に習熟することで、すべてのがんに悩む患者に対して最先端の医療を考えるきっかけを作るための講義である。
授業計画	講義日程表参照
備考	

シラバス講義名	がんプロ特講 I (臨床研究入門1)
担当教員	山本 紘司
単位数	1
期間曜日時限	集中前期(詳細は大学院講義日程表参照)
コース専攻	インテンシブプログラム
学習到達目標	修士課程で学んだ内容を実際に実践できる。
講義概要	臨床研究に関する研究デザインや統計解析の基礎を系統的に概説し、臨床研究論文を批判的に読み解くための演習を行う。また、ヒトを対象とした医学系研究を実施する研究者のリテラシーとして各種の規制や動向、政策上の課題等について学ぶ。
成績評価方法	出席状況を踏まえて課題レポート等を課し、総合評価を行う。
前提科目	
学習上留意点と準	主体的な参加と十分な復習を期待する授業前、授業中に提示する参考資料をもとに予習・復習を行うこと
オンラインツール	
教科書等	・『学会・論文発表のための統計学』 浜田知久馬著 真興交易医書出版部 ・『臨床研究の道標』 福原俊一著 健康医療評価研究機構 (iHope)
教員研究室	基礎研究棟 B641
教員オフィスアワー	随時(事前にアポイントを取ってください)
教員連絡先	
ホームページ	https://biostat.yokohama-cu.ac.jp/
教員実務経験	
アクティブラーニン	
SDGs	3.すべての人に健康と福祉を
授業計画	以下内容を講義形式で開講する。適宜レポート課題等を課し、知識の定着を確認する。 開講時間に留意すること。 ■必修1単位分 1 臨床研究総論 (1) : 臨床研究のデザイン 2 臨床研究総論 (2) : 2群/多群の比較 3 臨床研究総論 (3) : 生存時間解析 4 臨床研究総論 (4) : 交絡とその調整 5 論文の批判的吟味(1) 6 論文の批判的吟味(2) 7 論文の批判的吟味(3) 8 論文の批判的吟味(4) ※一部の授業においては外部講師による講義を実施予定
備考	なし